vol.103　星の郷総合教室発行　平成21年1月25日　交野市藤が尾4-15-20　TEL895－6230　発行人 金本和祐

Hoshinosato Star EXPRESS

1月号塾報を受け取った日：　　月　　日
名前：

INFORMATION

今月の予定

☆１月25日（日）　近畿大会大阪府予選
☆１月31日（土）　西日本大会申込締め切り
（大会は3月８日大阪商業大学にて）
☆２月８日（日）　１～３級・段位試験

◎１月31日・２月７日　検定特練　４時30分～６時30分
◎西日本大会は段位練習生に出場資格があります。参加希望者は参加料2050円を添えて申し出てください。
◎２月８日の試験会場・時間について
２・３級…星の郷総合教室　午前８時開始
１級　…北大阪商工会議所　午前11時20分開始
段位　…北大阪商工会議所　午前11時10分開始
当日は午前７時に教室を開けます。自由に練習してください。
◎検定特練は、自由出席・自由時間制です。都合の良い時間帯だけでも練習できますので有効に活用してください。

重要 車でのお迎え時間を厳守してください。お迎えは授業終了時刻の「後」です。4時クラスならば5時過ぎということになります。5時前だと渋滞の原因となります。

段位受験者急増

星の郷総合教室が加盟する(社)大阪珠算協会北大阪支部では、日本珠算連盟が施行する段位認定試験を年に3回、珠算能力検定試験と同日に実施しているが、このほど2月8日の同試験における受験者が急増し、従来の会場では収容しきれないことが判明し、会場変更を余儀なくされたということが関係者の証言でわかった。

昨年10月検定の受験者は25名と、ほぼ平均的な受験者数だったが、2月試験では54名が受験する。

段位試験問題は一種目の問題用紙がおよそ新聞紙大。内容は一級試験の3倍分に相当する。問題用紙が大きいため三人掛けの机を二人で使用しなければならず、80人超分の机を必要とすることから、緊急措置となった模様だ。

今回の試験で最多数の受験者を擁する星の郷総合教室の金本和祐塾長(30？)は、「当教室からも21名が受験するがこれは過去最高。前回試験で一級に合格した生徒のほとんどが間髪入れずに段位を受験するのも異例のこと。(受験者の)意欲の高さには驚かざるを得ない。集団心理が良い方向に向いてくれればいいが」と話している。

正月気分もさめやらぬ一月中旬、同教室の練習風景をのぞいてみた。およそ60人が座れる教室は4つのエリアに分かれ、生徒たちが一心に練習に励んでいた。教室入り口近くのフラッシュ暗算練習エリアにはパソコンが4台設置されており、個人の実力に応じた問題が出題される。フラッシュ暗算が練習メニューに入り出すのは、足し算・引き算の基礎訓練が終わり、かけ算の練習に入り始めた頃からで、まだフラッシュ練習に入られない生徒たちはパソコンのモニターをちらちらと眺めつつ、「正座エリア」で黙々とテキストをこなしていく。テキストを練習する生徒の進度は即座にパソコンに入力され、教室前方にプロジェクターで映し出されるので、誰がどのページをしているのか、進む速度はどうかといった情報が先生だけでなく誰でもわかるシステムとなっている。

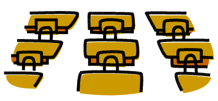
通常は一冊テキストが終了すれば次のテキストが渡されるのだが、中には同じテキストをもう一度繰り返したり、前のテキストにまで戻る生徒もいるという。間違えるパターンが固定化していたり、逆に混乱を起こして間違えるパターンに全く法則性が見いだされなくなったりして、そのまま進むとより深みに入ってしまうと判断されたりする場合の措置だそうだ。「戻った方が結果的に絶対にうまくなり、早く進めるという確信が持てる場合は無理に進ませません。『戻る』というと後ろ向きのイメージを持たれるかもしれませんが、決してそれは単に『やり直し』なのではなくて復習をしているのです。戻って大成功、という事例はいっぱいありますよ」(同塾長)

教室中央の椅子席には、検定練習の間違え直しをする生徒たちが座っている。三級受験者は1問できればすぐに先生に採点を依頼し、二級以上の受験者は自分で採点して、同じ問題を2回続けて間違えた場合はすぐに指導を受けるという約束になっている。「試験日が近づくにつれ、この席に座る生徒が減っていくのが通常。質問と採点を繰り返した回数が多ければ多いほど合格可能性は高まってくる。間違え直しをきっちりできる生徒が、最終的に強い人間に成長していく」と同塾長。何度はね返されてもあきらめずにやり抜く姿勢を育てる珠算教育の価値が凝縮された空間だと言えよう。

教室奥は、試験や大会に向けた模擬問題で実践練習を行うエリア。すべてのエリアに言えることだが、年齢は全く無関係。4～6歳の幼児たちが二級・三級の合格を目指して、小学高学年や中学生の間に交じって小さな指を器用に動かしている。先生の指示も「幼児だから」という手加減など無く、全く他の生徒と同等の扱いをしているが、慣れというのは強いもので、それなりに動けているのだから立派なものである。

現在、星の郷教室に通う生徒の年齢層は4歳から高校三年生までで、生徒の在学する幼小中高の学校数は20を超える。年齢や生活圏は多岐にわたるが、教室で毎日のように顔を合わせて切磋琢磨する中で、垣根を越える交流が生まれるのも珠算教室ならではである。先輩が後輩の面倒を見たり、時には先生に代わって注意を与えることも。「習い始めは正座。やがて椅子席になり、上達してくると椅子のグレードが上がるのです。誰が決めたことでもないのですが、自然とそういう雰囲気ができあがっているのがおもしろいですね」(同)

「椅子を狙う」のは、何も大人の世界の専売特許ではないようだ。



猛スピードばく進中

（1ヶ月で20ページ以上進んだ生徒）

濱野琴太73　酒井克巳58　渋川佳南子56　細川大輝50　山下業46　辻尾菜々43　西村早貴42　吉見優里38　木村梨紗子32　中川優花32　奥田あさひ32　西本朱里31　山本夕有花28　金子千紘25　守本光希23　木寺愛22　木寺輝20　角南佳祐20

出席時間20時間以上

（1月20日までの1ヶ月・全52時間）

松下綾乃50　金本三夢39　金本大夢37　金本愛夢32　今村妃菜30　木寺愛30　酒井結衣29　永井功久29　平松歩29　辨野優花29　百田遥26　窪田茜25　佐々木翔子25　濱野恵太25　酒井克巳24　濱野凌太24　今泉優衣23　藤本早紀23　江良尚泰22　河村朋佳22　西村早貴21　渡邉綾乃21　大國美咲20　長尾侑美20

フラッシュ暗算合格

（1月20日までの1ヶ月間の合格者）

三段　濱野凌太
二段　藤野柚季
初段　大内悠聖　百田遥　中村日菜
一級　大内悠聖　室屋梨奈　中村日菜
二級　山ヶ城千里　黒田幸花　札埜亜衣　夏見佳子
四級　青柳佳孝　木寺愛　松野円紀
五級　木寺愛　小鷹狩百花　高森美里　山崎大夢
六級　木本優芽　大野優　木村梨紗子　土井裕美子　河原健太郎
七級　木村梨紗子　高倉知良　村部啓太　平陸
八級　金子千紘　西村早貴　竹本千恵　松下真之介　高倉知良
九級　中上慶祐　山内優歩　西本朱里　金子千紘　西村早貴　竹本千恵
十級　風井悠希　前西ももこ　山内優歩　西本朱里

書道教室から

加藤真月

新年が始まり、気分新たに日々過ごされていることと思います。

世間では、通信教育でペン字や書道などのお稽古事の紹介をよく見かける時期ですね。字は、上手になる共通の法則のようなものがあります。練習すれば、必ず上達します。自分の成長が感じられる為、楽しく手軽に始められるお稽古事だと思います。

当教室でも、ペン字・書道とも金曜日の午前9時半から11時半まで練習を行っています。ご自宅で練習されて添削されるのでも結構です。（月謝ペン字3150円、書道4200円です。ちなみに、お子様が星の郷教室に通っておられる方なら入会金は兄弟割引が適用され半額の3150円になります。更に、書道セットが不要であれば、入会金は無料になります）何かご質問などありましたら、アドレスmari-kato20060826@ezweb.ne.jpまでどうぞ。良き出会いになれば嬉しく思います。

最近、『プロ親になる』（宝島社）という本（ドラゴン桜も一押し）を読みました。とても勉強になりましたので少し内容を紹介したいと思います。

感情的にならずプラスイメージの言葉で子供に接し、責任をもって子育てをするという自覚を持てるようになれば「プロ親」です。日々、努力することでプロ親に近づくことができます。

「子供をやる気にさせるテクニック」の章では、本物体験、読書と親子の楽しい会話の大切さ、がんばりや成長を振り返ることでがんばりを見つけ、写真をとったりすることで価値づけることの大切さが書かれてあります。価値づける時には、テストだけの結果だけでなく、ノートなどの頑張った過程を褒めます。そして、頑張れなかったことは一緒に悔しがることで、自然に新しい年の夢や目当てが出てくるのです。

また、具体的に新しい年の具体的なイメージを持たせる演出ができる親力が子供を伸ばします。新しい勉強への具体的イメージは「小学○年生の○○」の本を本屋さんで見たり買ったりすることで、何を習うか分かることにより、日々の生活の中でその準備ができます。例えば、分数が出てくるのであれば、ピザを切る時に分数について話してやることもできます。「めだか」という説明文を国語で読むのであれば少し前からめだかやげんごろうなどを飼うこともできます。こうして、下準備をすることで、学校でいきなり未知のものを勉強するよりより興味を持って取り組むことができるのです。

「子育てを楽しむために」の章では、いくつかの言葉が私の心に残りました。

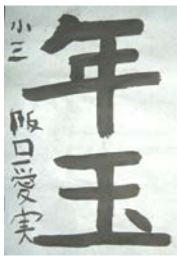
①「その時がくるのを待つ」ということ。つまり、個々の子供は自分のペースで成長しているということです。②「必要なのは叱ることではなく、手助けすること」大人は自分より弱い相手に自分のストレスを処理するために感情を爆発させるのです。人間的に許されないことをしてしまったときは勿論、全身全霊で叱る必要がありますが、子供たちに対して大人がすべきことは、指導、助言、注意、指摘、声かけ、支援、工夫、環境整備、激励、称賛などです。③「それぞれの事情の中で、子供に向ける時間を増やす努力を」です。忙しさや自分の用事にかまけている私は、丁寧に接するべきところを安易に済ましてしまっている所が反省です。④「自分の子供だけ幸せにすることはできない」ということです。世の為、人の為という大きな価値観を持って生き、それを子供に伝えていくこと。人は自分たちだけでは幸せになれないということを私も分かっているようで、言われてみて、少しその事を忘れている自分がいました。

私は、幸い自分の子供だけでなく、色々な子供たちと接することができます。それぞれ、ひと月に4時間という短い時間ですが、お習字を教える中で子供達ひとりひとりの頑張りを見つけ、成長を認めていくことで、それぞれが自分へのプラスイメージを高めていってもらいたいな、と思います。

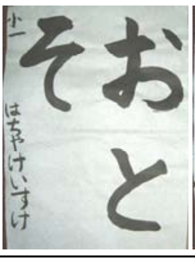
また、毎月お返ししている子供たちの練習した作品はすぐに捨てずに、頑張って練習している成果として子供と一緒に見て頂けたら、と思います。

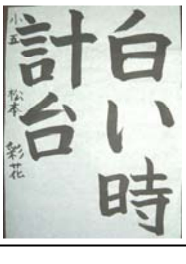
さて、今月は初めて生徒の皆さんの作品を一部、ご紹介したいと思います。書道教室に長い間来られている方を優先的に選びました。また、硬筆作品はデジカメで撮影すると、とてもわかりにくくなりましたので毛筆作品に致しました。1月号の毛筆課題にしましたので、長い間書道教室に来られていても、ま

小三
たかく
会る
田中 沙季



小二
ば
車
かねもと みゆ





レベルアップを目指して

特別練習大盛況

本番は2月8日

星の郷教室では2月8日の検定試験に向けて昨年12月下旬から毎週土曜日の夕刻に特別練習を行っている。通常授業とは少し異なる雰囲気の練習で全員合格を目指す。

1月初旬の特別練習。受験生の多くが出席する中で、金本和祐指導部長（25??）の指示が飛ぶ。「今日は『独り**スウェーデンリレー**方式』で練習をします」。生徒たちの表情には〈?〉マークが多数点滅しているが、その後の補足説明が無いのはいつものことらしい。「かけ算1問できたらもってらっしゃい」の指示も終わらないうちに早速そろばんをパチパチと弾く音が教室内に響きだした。

1問を終えた生徒がぞくぞくと採点の列を作る。同指導部長と指導部次長兼掃除部長を務める金本文美先生（20！）が次々に審査し、正答ならば「次は2問計算してきなさい」。生徒たちは練習方式の意味がおぼろげながらわかりだしたようだ。3問・4問と計算題数が順次増えていくにしたがって緊張感が高まる様子が記者にもひしひしと伝わってきた。途中で1問でも間違えてしまうとふりだしに戻ってまた1問採点からスタートする。「1問1問を大切に気持ちを込めて計算することが大切。最善の練習方法です」と、ほんの数分前に思いついた方法であることはおくびにも出さずに同部長は胸を張る。

同教室では過去にも1問ずつ採点して、間違えた途端にそのプリントはすべて宿題となり、新たなプリントで一からスタートする【はい、それまでよ練習】や、注意不足の間違えをした場合は、その過失に応じて腕立て伏せの回数が決められる【力のつくそろばん教室キャンペーン】を実施してきているが、基本的に生徒には不評のようだ。全員がすべて間違わずに終わることができれば先生が腕立て伏せをするという約束を生徒たちから課された同部長は、「しばらくは腕がしびれて仕事にならなかった」こともあるらしく、以降この練習方法はお蔵入りしたままだ。

ニュースの言葉

※スウェーデンリレー

陸上競技のリレー種目の一つ。一般に1走から順に100-200-300-400mの計1000mを4人で走る。世界選手権や日本選手権での実施はなく、主に学校の体育祭や大学の記録会などで行われる。1910年代にスウェーデンで人気があった100ｍ・200ｍ・300ｍ・400ｍの「1000ｍメドレーリレー」のことを「スウェーデンリレー」と発祥の地から名をとり呼ぶようになった。また、英語をつかう国（英語圏・北米諸国）ではスウェーディッシュリレーと言う。出典：フリー百科事典『ウィキペディア Wikipedia』

～読み・書き・そろばんは学力の基礎～

新入会のご案内

《そろばん・書道》

新入生の募集は随時行っております。お気軽にお問い合わせ下さい。そろばんの体験入学は予約制です。体験は毎週土曜日の午前10時30分から行っています。

授業見学はいつでもできます。予約も不要です。また、在塾生の保護者の皆様の授業見学も大歓迎です。遠慮なさらずに、どしどしお越し下さい。

編集雑感

ずいぶん昔のことを思い出す。学生時代の試験前のことだ。やらなければならない課題が山積しているのになぜだか急に机の片付けをしたくなる◆片付けなければ勉強ができないというような強迫観念にも似た暗示を自己にかけ、とことんまで逃げようとする。そんなときに限って見入ってしまうような写真を見つけたり文章の切れっ端を見つけたり…。焦りを助長する要因は数々あれど、何一つ解決しない。でも、やるしかない。締め切り時間は刻々と迫ってくる◆新年第一弾の塾報。〈いつもとはちょっと趣の違うものを〉と思ってしまったのがそもそもの間違えの始まりであった。タイトルのレイアウトをいじっているうちに本文を縦書きにしたくなり、それならば〈いっそのこと新聞風に作ってみよう〉と相成った◆本末転倒とはまさにこのことで、枠組みやら字体のことなどをあれこれと考えて試行錯誤しているうちに塾報発行という本来の目的は頭の片隅に追いやられ、《新聞の真似事》そのものに興味の大半が移っていき、気づくと時間切れ寸前◆しかし、新聞風に作ってきて新たな発見もあった。過去１０２回にわたって一人称で書き続けてきた塾報を今回初めて三人称で書くことになった。どの人称で書こうが書き手は同じなので皆様には大差ないかもしれないが、こちらはずいぶんと新鮮な気持ちになることができた。そして何よりも視点をガラリと変えて教室を見ることができたのは大きな発見であった◆時はまさに変革、〈change〉である。一字変えると〈chance〉◆塾報の体裁を変えるということなど、ほんの些細なことに違いないが、しかし、変えなければ永久に気づかなかったことがあるやもしれぬと独りで合点し、今後の指導に生かすチャンスとしたい。